

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	高齢社会における地域ぐるみの見守りシステムモデル構築へ向けた取り組み
日時	平成 25 年 3 月 31 日 11 : 40~11 : 50
会場	第 8 会議室
座長	坂の上ファミリークリニック 小野宏志先生
演者	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス東埼玉総合病院・中野 智紀先生
企画趣旨	<p>【目的】近年、本邦では急速に高齢化が進行している。限られた地域資源で高齢化時代の医療介護の大量需要に対応する為には、地域レベルの新たな仕組みの構築が必要と考えた。今回当院では、平成 24 年度在宅医療連携拠点事業を受託し、地域の全ての住民を対象に、潜在的なリスクを含めたアセスメントを行い、正しい情報提供や自立支援、見守り、そして、在宅医療を含む医療介護サービスへと適切に繋ぎ、地域ぐるみで重症化予防を行うことで、継続可能な医療介護の新しい仕組みづくりを行うことを目的とした。</p> <p>【方法】地域レベルの顔の見えるネットワークを構築した。在宅医療や施設を越えた多職種協働へ向けた人材育成を行った。高齢社会を支える継続可能な地域ぐるみの見守りシステム（東埼玉モデル）を構築した。</p> <p>【結果】①その人にとって最適な支援を一体的に提供する為、モデルとしたコミュニティの全住民を対象として健康・生活の両面における包括的アセスメントを実施した。②アセスメント結果により明らかになったニーズに応じて、適切に医療・介護のフォーマルサービスへ繋いだ。③潜在的なリスクに対して重症化予防を行い、予測可能な健康や QOL の悪化を回避する重症化予防プログラムを稼働。④医療・介護サービスを主体的かつ適切に利用できるための住民教啓蒙。⑤高齢社会時代を支える在宅医療や多職種協働を担える人材の育成。⑥地域包括ケアを支える地域レベルの多様なヒューマンネットワークの構築。</p> <p>【考察・結論】全住民を対象として、その人にとって最適な在宅医療を含む医療・介護サービスの一体的提供、包括的な重症化予防、情報の利活用による地域全体最適へ向けたマネジメントなど、高齢社会においても、継続可能な地域ぐるみの見守りシステムモデルを構築した。</p>